

## 私の国の文化：カレー文化論

ヘザー・オコネル（英国）

アメリカの文化は日本のカレーのようである。なぜなら、アメリカをカレーだとすると、カレーの中に色々な材料が入っているように、アメリカの中にも色々な文化があるからだ。

カレーの中に、じゃが芋や人参、玉ねぎ、肉などを入れると、美味しくて完成した味になる。アメリカ合衆国も同じである。アメリカの国民はほとんど移民の子孫なので、移民が元の国の文化をアメリカに持ってきて、その文化がアメリカの文化に完全に溶け込んだ。だから、アメリカの文化と聞かれると、特定のイメージを思い出すのではなく、色々なアメリカっぽい文化が思い起こされる。例えば、「アメリカンホットドッグ」という食べ物はもともと「フランクフルター」というドイツのソーセージだった。また、1870年ごろにニューヨークで、ドイツからの移民が細長いパンにソーセージを挟んで売り始め、のちにアメリカで有名な「ホットドッグ」と呼ばれるようになった。

アメリカの文化には、特にヨーロッパやアジア、ラテンアメリカの文化が現れている。アメリカ合衆国は建国される前、イギリスの植民地だったので、アメリカの基本的な制度やアイデアはイギリスからもらったものが多い。例えば、アメリカの憲法や政府を作った「ファウンディングファーザーズ」という建国者はイギリスの教育を受けていた。また、現代のアメリカでは、他国から影響された地域も多くある。南西部の州（カリフォルニアやニューメキシコ、テキサスなど）はメキシコに影響された。特に食べ物や場所の名前だ。例えば、都市の名前の始まりが「サン」や「サンタ」なら、もともとカトリックの宣教師に設立された伝道所の場所であったことを表す。「サン」や「サンタ」はスペイン語で「聖人」という意味があるためだ。宣教師は偉大な聖人に敬意を込めて、その名前を都市に使った。例えば、「サンフランシスコ」は「フランシスコ」という聖人の名前を用いて名付けられた。

アメリカの文化は移民の文化がなかったら、「完成している」と感じられないだろう。カレーも同じだ。材料が一つでも欠けていたら、そのカレーに物足りなさを感じる。カレールーだけではカレーが完成したとは言えず、材料が全て揃って初めて美味しく食べることができる。アメリカも様々な文化があるからこそ成立している。この点で、アメリカの文化はカレーのようだと言うことができる。

(976字)